

中小製造業同士が手を組み、競争が激しい海外の航空機市場に挑む動きが埼玉県内で始まった。大手重工メーカー不在の地域では珍しい取り組みで、産業構造の多様化を進める県も後押しする。ただ、コスト削減

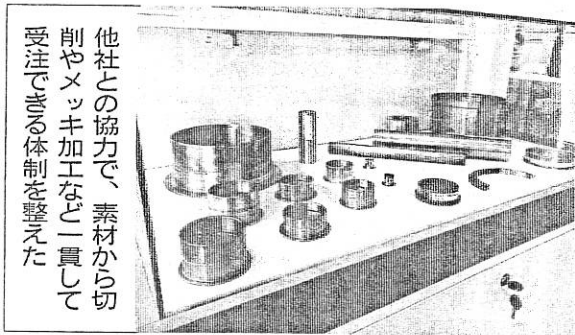
# News 展望 潜望

圧力など参入障壁は高く、視界はまだ見通せない。

旅客機の脚部用軸受けの素材を供給する特殊銅合金製造の三芳合金工業(三芳町)。2016年秋から県内企業など3社と組み、軸受け部品の試作に乗り出し

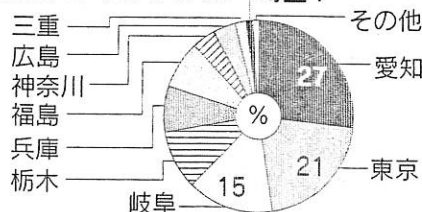
## 航空機部品の一貫生産体制

# 埼玉中小参入には壁



他社との協力で、素材から切削やメッキ加工など一貫して受注できる体制を整えた

航空機関連の製造品出荷額に占める埼玉の割合はごくわずかだ



(注)経済産業省の工業統計調査(2014年)より作成

▼埼玉県の航空機産業支援 将来の産業基盤を育成する「先端産業創造プロジェクト」の重点5分野の1つに「航空・宇宙」を指定し、補助金による研究開発や認証取得を後押ししている。企業同士の「一貫生産体制」構築に向け、中核となる企業の支援も強化しているが、受注獲得の実績はまだない。

県産業振興公社の仲介もあり、製造業同士の協力を踏み切った。

国内では大手重工メーカーの拠点がある愛知や岐阜

を組む海外企業との直接取引に臨んでいる。大手が求める納期短縮やコスト削減に対応する狙いもある。埼玉にも自動車産業など航空機と親和性の高い技術の蓄積があるが、大手不在のハコモノが響き、14年の航空機関連産業の製造品出荷額は約95億円と全国の1%にとどまる。

こうした実態を踏まえ、県は14年度に始めた「先端産業創造プロジェクト」で、航空・宇宙分野を柱の一つに指定。16年度からは部品の一貫生産体制の構築に向け、中核企業の育成を強化している。関東経済産業局も管内企業の航空分野への参入支援に積極的だ。それでも中小企業が大手や海外企業に対峙するのは容易ではない。試作段階で新規参入を断念した県内の中小企業経営者は「大手からのコスト削減圧力に耐えられなかった」と漏らす。三芳合金工業の萩野源次郎社長も「航空機事業は一朝一夕に成果が出るものではない」と断言する。

埼玉県内ではIHIが航空機エンジン関連の新工場建設を検討しており、実現すれば県内企業を取り巻く環境も一変する。飛躍のチャンスをいかにつかむか。機動的かつ息の長い官民の取り組みが求められる。

た。同社の素材にメッキや切削加工などで付加価値を高めた部品を「一貫生産」できる体制を構築。国内外の展示会で出展するなど売

取材の出荷額は前年より2割増えた。ただ、アジアを中心に今後拡大が見込まれる航空機需要を見据え、素材以外でも取引先に提案できる「武器」が必要と判断。

東京

(さいたま支局 山口啓一)